

年頭のご挨拶

鹿児島県看護協会 会長 八田 冷子



令和7年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

鹿児島市医師会の先生方におかれましては、本年も引き続き本協会会員はもとより看護職へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は元日早々能登半島地震が発生し、全国に激震が走りました。貴会の先生方も現地支援に尽力されたとお聞きしております。私たち看護職におきましても、現地の多くの看護職をはじめ、日本看護協会と各県看護協会の連携による災害支援ナースの活動がありました。今年1月18日には「災害に備える～共に生きる看護力～」をテーマとし、被災地の石川県看護協会長をお招きし、特に災害支援ナースの派遣調整に係る諸活動や避難所での看護活動等をご報告いただき、今後、大規模災害が県内で発生した場合にも円滑な看護活動ができるよう備えたいと考えております。

本県の状況を見ると、本協会ナースセンターの無料職業紹介所の看護職の有効求人倍率は令和6年10月末現在1.5倍であり、国3.4倍に比べ低い状況となっておりますが、病院看護管理者からは依然として人手不足の状況は続いており、夜勤のスタッフ確保等シフト組みに苦労しているとの声が寄せられております。

このような中、すでにご承知のとおり、令和5年10月に「看護師等の人材確保を促進するための措置に関する基本的な指針（以下「基本指針」という）が30年ぶりに見直され、看護職の養成、処遇改善、資質の向上、就業

の促進等についての方向性が示されました。本協会としても基本指針に明記された看護補助者の確保定着に向け、令和6年度は県から看護補助者確保支援事業を受託しモデル事業等に取り組むなど、今後とも、看護職員が自信と誇りを持って心の通う看護を提供できるよう基本指針に沿って努力してまいります。

また、県の委託を受け運営している県医療的ケア児等支援センターが開所して1年となりました。県内各地から多くの相談を受けており、その中から見えてきた医ケア児等やその家族の支援に係る課題を解決するための取り組みは、世代や分野を超え住民一人ひとりの暮らしと生きがいを創っていく地域共生社会の実現につながるものと考えております。

現在、日本看護協会は2040年に向けた新たな看護の将来ビジョンの作成に取り組んでおります。これまでの看護ビジョン「人々のいのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」は今後も普遍的なものであることを再確認した上で、今後の働き手の不足やIT化の推進などを踏まえ、看護はこれからどのような役割を果たすべきか、そしてその実現のために何をすべきか、看護の進む新たな方向性を明示することとしております。先生方におかれましても本年6月に公表される新たなビジョンを是非お目通しいただければ幸いです。本協会としましても医療チームの一員として、今後とも質の高い看護職の育成確保に努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

結びに、鹿児島市医師会の益々のご発展を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。